



FLOWER BULBS SINCE 1955

株式会社 中村農園

NAKAMURA-NOEN CO.,LTD.

〒781-0270 高知県高知市長浜 5381
5381, Nagahama, Kochi 781-0270, Japan

☎0120-874195 (ハナヨイキューコン)

Tel. (088)841-1311 Fax. (088)841-0603

E-mail: info@nfb.co.jp URL: http://www.nfb.co.jp

お客様各位

2023年南半球産 取扱予定品種一覧表（暫定版）について

2023年2月6日

株式会社中村農園

中村慶吾

いつもお世話になっております。

表題の件につき、品種リストと概略をご案内申し上げます。

昨年、2022年南半球産の収穫結果は、CH産が概ね良好、NZ産が肥大不足となり、HPでもご紹介の通り、日本の総輸入球数は2034万→1858万球に減少し、対前年91.3%（▲8.7%）となりました。

コロナ以降、ユリの切花相場は好転しておりますが、国内の中間産地（本州の日本海側気候～内陸・関東北部）では、南半球を使った冬作はコスト高で採算が合わないとの懸念もあつたと思います。

2月1日の農業新聞表紙の“資材価格 22年過去最高”という記事では、A重油は2020年に比べ4割ほど高騰したと報道されております。切花生産は営利事業ですから、各地方・気候等に合わせた作型の調整が重要になっています。

① アイランドバルブはニュージーランドからチリへ移動しました

近年、NZ北島のネイピア周辺では、ワイン用ブドウや果物の畑が増え続け、球根生産に使える新しい土地を準備することが困難になっていました。昨年から種球の生産が先にチリに移行し、2023年産からは、販売球もNZでの生産が無くなり、多くの品種はチリのサザンバルブ社で継続されます。ニュージーランドでの生産はラカイヤ地区のバンザンテン社とバッカー社の2社のみになります。

② 球根単価を取り巻く経済環境

2022年産よりコストプッシュ型で世界的に球根相場は上昇しました。又、日本の船運賃が異常に高騰し（船会社は記録的高収益）、今年に入りやや落ち着くも依然高止まりしているため、他の輸入品同様、球根単価を押し上げています。

為替相場は、アメリカFRBが金利上昇幅を縮小させ、1ドル=150円の記録的円安からは幾分下がりましたが、逆に22年11月以降、ユーロはドルに対しても強くなっており、下表のように22年産に比べて円安が続いている状況です。

為替相場の比較	ユーロ/円
2022年2月 (22年SH産)	約130円
2023年2月現在(23年SH産)	約140円(前年比7.7%増)